

## 読売新聞 きょう（6月10日）のイチ押し

### 1面 給付金詐欺 20代以下7割 摘発2500人、安易に加担

全国で摘発が相次いでいる新型コロナウイルス対策の「持続化給付金」の詐欺事件で、5月末までの約2年間に全国で逮捕・書類送検された容疑者の約7割にあたる約2500人が20歳代以下の若者でした。

- ★ 警察庁による初の集計で判明しました。本紙の特ダネです。
- ★ 持続化給付金詐欺事件は全国で3315件摘発され、容疑者は3770人いました。うち20歳代が最多の62%（約2300人）で、10歳代（6%、約200人）とあわせると7割に上りました。
- ★ SNSで「簡単に金がもらえる」などと誘われたケースが多く、警察幹部は「安易に不正を行う若者が目立つ」としています。

### 1面、3面、社会面など 観光入国 手続き再開 きょうから

政府は10日、新型コロナウイルスの水際対策で停止していた外国人観光客の受け入れ手続きを再開します。観光目的の外国人の入国を認めるのは約2年2か月ぶりです。

- ★ 当面は、感染リスクの低い、米国や中国、韓国など98か国・地域からの添乗員付きのパッケージツアー客に限定します。個人旅行の入国は認めません。
- ★ 観光庁はガイドラインで、ツアーを実施する国内の旅行会社に対し、ツアー客の感染対策の徹底や、コロナ発症時に備えた行動履歴の保存などを求めています。
- ★ 3面スクランナーで、再開を決めた経緯や今後の課題、社会面で、期待と不安が交錯する旅行会社やホテル業界の反応をまとめています。

#### 他紙と比べて

最先端の科学と医療の情報をわかりやすく紹介する「なるほど科学&医療」のコーナー（19ページ）。今回は、iPS細胞をがんの治療に活用しようという研究についてです。研究に取り組む山中伸弥・京都大教授の背中を押したのは、ある親友の死でした。